

教育委員会だより

入野小学校

「確かな学力」と「豊かな人間性」を目指して

校長 山本 岩見

本校は、平成17年度から3年間、高知県教育委員会から「学力向上フロンティア事業」の研究指定を受け、昨年11月にその研究の一端を発表しました。

そこで、今回は発表内容の一部を紹介させていただきます。

本校の概要

今年度は4月に28名の新生を迎え、全児童数191名（家庭数149）、学級数8、教職員数18名でスタートしました。

本校では目指す児童像を、
か…かんがえる子
が…がんばる子
や…やさしい子
き…きたえる子
と掲げて取り組んでいます。

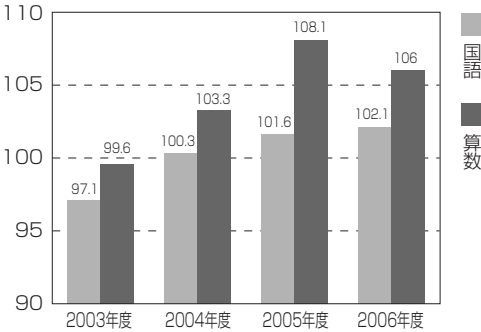
児童の実態を把握するために
学力の向上・定着化を図る

ためには、児童の実態を知る手だてが必要です。
そこで、本校では、CRT（到達度把握検査）などの結果をひとつの基準として、課題を見つけ取り組んでいます。

● CRTの結果について

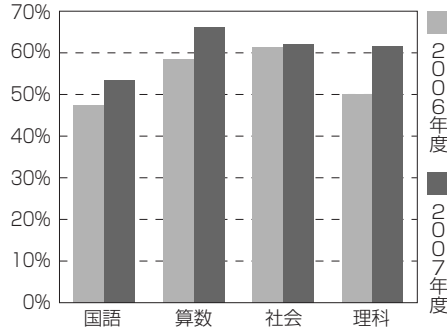
左表のとおり、国語全体では年度を追って伸びが見られましたが、内容領域で「話す・聞く」が低く課題として残りました。
算数でも国語と同じように全体的には伸びが見られ、全国平均を上回っている領域もあります。

CRTの結果（全国を100とした過去4年間の状況）



● 単元別テストの結果について
本校では、昨年度から4教科の単元テストで90点以上を到達目標に掲げ、日々の実践に取り組んでいます。

単元テスト90点以上の割合



● 普段の授業から

CRTやテストの結果だけでなく、子どもの実態が現れるのは普段の授業態度や学習ぶりからです。こういったことも見逃すことなく、実態把握に努めています。

取り組みの経緯について

平成17年度の1年目は、過去3年文科省の研究指定校として取り組んできた成果と課題をもとに、基礎学力の定着を目指した「学習のあゆみ」への取り組みや学期に数回の「レポート報告会」、「研究授

業」での実践交流、子ども理解のための「Q-U（学級満足度調査）」の実施と分析などを行いました。

2年目には、1年目の取り組みを継続しながら、教師の原点に立ち返り、自らの指導力を高めようと「授業力」の研究にも取り組んできました。

3年目の今年度は、子どもたちの実態をいろいろな角度から吟味し、子どもたちの学力の定着・向上を図るには「授業の質」を問うことへの研究が大事であるという共通認識に基づき、各教科の基礎になる「国語科」を中心に取り組んできました。

「国語科」の中でも、文章の読み取りや自分の考えを自分のことばでまとめることが苦手な子どもが多いという実態を踏まえて「読むこと」に焦点をあてています。

本年度の取り組みから

【授業研究を中心に】

本年度は、山口大学の乗原昭徳先生のご指導により、ひとつの授業の中で、次の3つの学力を同時平行的に育てていく授業づくりを展開しているとあります。

① 学習内容（内容学力）

一時限の授業ごとに変化が発展する

② 学習方法（方法学力）

その教科・領域に独自性がある

③ 学習規律（規律学力）

どの教科・領域にも共通する

「かがやき集会」

「りんりん・はきはき・どうとうと読もう」を合い言葉に、月に1回、2学年ずつ全校生の前で、めあてをもっての音読発表です。発表後、児童が感想を出し合い、教員の講評後、教室で思い思いの感想を書いて、用意された模造紙に貼っています。



かがやき集会の様子

おわりに

紙面上、一部しか記載することができませんでしたが、本校では、今までの取り組みを基盤に据え、これからの子どもたちの「知・徳・体」の向上に努めてまいりたいと考えています。